

東濃社会教育だより **Plus**

—CS—

岐阜県恵那県事務所
振興防災課 振興防災係
社会教育担当：牧野賀一
〒509-7203
恵那市長島町正家後田 1067-71
TEL:0573-26-1111 内線 210

C・S ～取組の実績が出つつある今だからこそ、原点を大切に～

<学校運営協議会に関する法的根拠>

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 47 条の5に基づく制度で、平成16年に法制化され、令和6年度で制度化20周年を迎えました。平成 27 年 12 月の中央教育審議会答申を踏まえ、学校運営協議会の設置の努力義務化やその役割の充実などの改正が行われ、現在の形となっています。

<用語について>

現時点では、市によって地域学校協働活動に差があります。ただ、徐々に有効性が認知され、学校運営協議会制度については、かなりの導入率となってきました。一方で、「地域学校協働活動」や「地域学校協働本部」、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」等の言葉が独り歩きし、それぞれの解釈が進んでいるようにも感じられます。

活動が充実していれば言葉は問題ないという考えもありますが、原点に返ってそれぞれの用語を今一度、確認いただき、今後の活動の参考としていただければと思います。



「学校を核とした地域づくり」を進めるうえで、学校と地域で目指す子ども像を共有し、協力して行う活動が「地域学校協働活動」です。ぶれなく活動を進めるために、目指す子ども像を明確にしておくことが大切です。地域の課題を何でも学校にもちこむのではなく、目指す子どもを育てるための活動を行っていきます。ふるさとに愛着をもった子どもを育てることは、将来の地域をつくることとなります。地域の方々が学校を支える(汗を流す)のみになってしまうのではなく、地域の方々にもプラス(地域の活性化、個人の自己実現等)になる活動にすることが大切です。子どもも、かかわる大人も楽しく活動できるとよいです。学校は、活動を持続していくために、教育課程に位置付け、常に見直し、改善を図ることが望まれます。こうすることで、地域と学校が一体となった活動となり、地域の課題を解決しつつ、地元へ愛着をもつ子どもたちを育てること(学校を核とした地域づくり)ができると考えます。

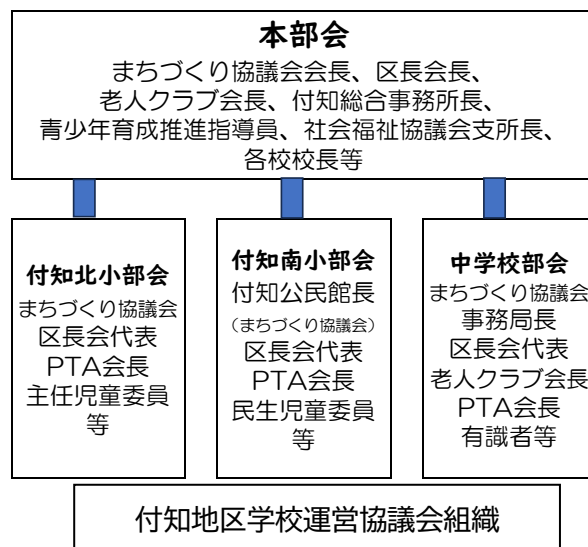
それぞれの学校のよさを活かした組織づくり:付知地区C・S

<付知地区の学校運営協議会の組織の工夫>

令和7年1月28日(火)に付知地区学校運営協議会に参加させていただきました。当日は、32名の方が参加しました。参加者は、学校運営協議会委員であり、まちづくり協議会の会長さんをはじめ、付知総合事務所長、区長会長、付知公民館館長、青少年育成推進指導員、PTA 会長、民生児童委員等、付知の町づくりにかかわる方々です。

付知地区は、2小学校、1中学校がありますが、学校運営協議会は、3校を合わせて1つです。ただし、各学校の特色を十分に活かした教育活動が展開できる

よう、図のような組織としているところが特徴です。本部会、北小部会、南小部会、中学部会にはそれぞれの委員がいます。本部会は、3校全体を網羅し、各支部会は各支部の学校を担当します。本部会と各支部会をつなぐために、まちづくり協議会から、本部会に会長さん、各支部会にそれぞれ事務局長さんをはじめとして1名ずつ委員として所属しています。また、区長会から本部会には、区長会長さん、各支部会には、担当の区長さん方が所属いただいております、各支部の取組の集約がしやすい組織となっています。



<「付知の子どもたちをどのように育てていくか」をテーマとした熟議>

付知地区学校運営協議会では、昨年度も熟議を行っているため、スムーズに熟議が進行しました。テーマは、「付知の未来を担う子どもたちをどのように育てていくか」です。参加者各々が多くの付箋に願う子どもの姿を記入するなど、KJ 法を用いて積極的な意見交流が行われました。各自で記入した付箋を模造紙(B 紙)に貼りながら交流しました。

「明るく、元気に挨拶ができる子」「ふるさと付知を大切に思える子」「人とのつながりを大切に、豊かな心をもつ子」「ネットに関して判断力がある子」など、様々な立

場から多くの意見が出されました。話し合いを進める中で願う子ども像が明確になっていきました。

付知地区のように3校で1つの学校運営協議会という形は少し特殊ではありますが、だからこそ、目指す子ども像を明確にした活動が重要になってきます。今回の熟議が、今後の地域学校協働活動に活かされ、さらなる付知の町づくりにつながり、地域ぐるみでの教育が進められることと期待しています。



熟議の様子:4~7名で1グループを構成しました

楽しみながら成長できる！東濃地区ジュニアリーダー研修会

令和7年2月8日(土)に瑞浪市総合文化センターにおいて、東濃地区ジュニアリーダー研修会が実施されました。今年度は、7月に続き、2回目の実施となりました。

<KYT 講習会>

今回は、午前中に土岐市のジュニアリーダーの担当2名(中2)が司会・進行役を務め KYT(危険予知トレーニング)の講習が行われました。講習は、子どもたちが活動している様子を描いたイラスト(右図参照)から、そこに潜む危険について話し合い、対策を考えるものでした。各市で子ども会の行事等を行う際に必要な視点を学ぶ研修でした。実際の活動の中で様々な危険が隠れていることをリーダーとして認知していることは、事前準備や当日の運営の安全を高めます。貴重な学びとなりました。

<レクリエーション演習>

午後からは、多治見市、中津川市のジュニアリーダーがそれぞれ担当し、レクリエーションが行われました。参加者を活動に巻き込んでいく言葉かけ、活動の指示の出し方等、いかに楽しく活動をリードしていくか、先輩リーダーから学ぶ点が多くありました。参加したジュニアリーダーたちの表情が徐々に柔らかく、楽しそうになったことが印象的でした。

<各市における子ども会活動、ジュニアリーダー活動を盛り上げよう>

少子化の影響もあり、各地域の子ども会活動が実施しにくくなってきています。しかし、子どもたちにとっては、次のようなメリットがあると考えます。

○異年齢の子どもと関わる機会として ○他地域(学校、市)の子どもと関わる機会として

○関わったことのない大人や他市のジュニアリーダーと関わる機会として

話は飛びますが、令和6年9月28日、29日に岐阜市で東海北陸地区子ども会育成研究協議会岐阜県大会が開催されました。そこでの早川三根夫氏(前岐阜市教育長)の講演において AI の時代だからこそ、実際に集い、活動することの意義が言われていました。今回のジュニアリーダー研修会も参加したリーダーたちにとっては、大変勉強になる研修会であったと思います。このような機会を与えてくださった各市の理事、役員様、事務局の方々、ありがとうございます。各市の子ども会関係者の皆様、大変なことも多くあるかと存じますが、子どもたちの貴重な学びの機会の1つとしての子ども会活動を今後もよろしくお願いいたします。

危険予知トレーニング(KYT)①

みんなで考えよう



KYT 資料の一部



グループでの討議・交流の様子



レクリエーションの演習風景

< 令和6年度東濃地区社会教育振興協議会 >

事務局は、恵那県事務所振興防災課及び中津川市(生涯学習スポーツ課)にあります。
担当: 牧野賀一 TEL 0573-26-1111(内線210) FAX 0573-25-7129
Eメール: makino-yoshikazu@pref.gifu.lg.jp

HP 二次元コード→

